北西域土壤汚染対策

地盤浸透性改良薬剤の開発

1. 薬剤(FBスラリー自社剤)粒子の微細化
2. 新FBスラリーの地盤浸透性評価
3. 新FBスラリーの重金属吸着特性
4. 微細化に伴う粘度増加対策(分散剤検討)
5. 今後の課題

本検討の位置づけ

工場北西域土壌汚染対策

1. 薬剤 (FBスラリー自社剤) 粒子の微細化

- ・試験目的 スラリー (粒子懸濁液) の地盤浸透性改良
- ・改良手段 ビーズミル機械的分散による粒子微細化
- ・粒度目標 d_{50} (平均) $2 \mu\text{m}$ ↓、 d_{max} (最大) $10 \mu\text{m}$ ↓

・試験結果

FB酸化鉄粒子の粒度分布

ビーズミルの構造

ビーズミルの概観
(ベッセル取り外し状態)

バッチ数	#1
周速 [m/s]	10~
流量 [L/min]	10.5~
ビーズ材質・径 [mm]	SS 1.7
充填率 [%]・量 [kg]	80 32.68
スクリーン目開き [mm]	0.5

運転条件

粒度目標 達成

2. 新FBスラリーの地盤浸透性評価

・試験目的 ビーズミル微細化新FBスラリーの地盤浸透性向上の確認

浸透試験装置

従来
FB

新
FB

浸透状況(1時間後)

カラム高さ50cm

試験後コア

(均一に浸透)

浸透試験結果

FB材2 時間注入					
試料土	浸透液	浸透時間 (h)	浸透量 (mL/分)	透水係数 (m/sec)	浸透液の SS(g/L)
珪砂7号	従来FB材 10倍希釈	1	11	1.87×10^{-5}	無
		2	7	1.19×10^{-5}	無
		—	—	—	—
珪砂7号	新FB材 10倍希釈	1	27	4.59×10^{-5}	18.7
		2	7	1.19×10^{-5}	8.54
		—	—	—	—

元FB材スラリー濃度 約20wt%
試験時 約2wt%(20g/L)

地盤浸透性向上を確認

3. 新FBスラリーの重金属吸着特性

ヒ素の吸着試験の結果

・試験目的
**新FB材の重金属
 吸着性能の確認**

No.	FB材		添加したヒ素		吸着後の平衡ヒ素濃度 (mg/L)		ヒ素吸着量 (mg/g)	
	種類	濃度 (g/L)	価数	濃度 (mg/L)	1時間	24時間	1時間	24時間
1	新FB材	1	III	0.1	0.001	0.001	0.099	0.099
2				1	0.002	0.002	0.998	0.998
3				10	0.19	0.052	9.81	9.95
4				100	29.45	24.41	70.6	75.6
5	新FB材	1	V	0.1	0.001	0.001	0.099	0.099
6				1	0.004	0.001	0.996	0.999
7				10	0.47	0.20	9.54	9.80
8				100	50.37	45.89	49.6	54.1
9	従来FB材	1	III	0.1	0.001	0.001	0.099	0.099
10				1	0.005	0.002	0.995	0.999
11				10	0.15	0.046	9.85	9.95
12				100	24.24	22.85	75.8	77.1
13	従来FB材	1	V	0.1	0.001	0.001	0.099	0.099
14				1	0.002	0.002	0.998	0.999
15				10	0.13	0.004	9.87	9.99
16				100	46.73	44.03	53.3	56.0

吸着等温線(3価ヒ素、24時間)

吸着等温線(5価ヒ素、24時間)

**重金属吸着性能
 が従来品と遜色
 ないことを確認**

4. 微細化に伴う粘度増加対策(分散剤検討)

- ・試験目的 粒子微細化に伴い増加した粘度の低減 粘度は地盤浸透性の重要な因子
- ・改良手段 分散剤の添加 スラリーの安定性(粒子の沈降防止)の観点からも必要
- ・改良目標 **粘度10mPa・s↓、重金属吸着不溶化性能への影響なし**

粘度低下効果が大きいのは分散剤A、B、1~1.5%添加で**目標粘度を達成**
 分散剤添加で**重金属不溶化性能は低下**、但し1%では **添加なしとほぼ同等**

5. 今後の課題

1) FBスラリーについて

粘度低減 及びスラリー安定性(沈降防止、容易な再分散)の改良が必要

分散剤の添加が必須(分散剤の種類、添加量最適化の詳細な検討を実施)

・分散剤選定の検討ポイント

粘度低下性、スラリー安定性、重金属吸着不溶化性能への影響
安全性、コスト 等

2) 施工テストまでの進め方、課題について

- ・スラリーの適正濃度
- ・地盤中のFB濃度(FB材／土壌)のコントロール方法
- ・施工方法、規模、場所

今後 検討を行い、環境専門委員会分科会等で審議

※資料提供、試験協力、試験実施

アシザワ・ファインテック株式会社

株式会社大林組

株式会社間組

(敬称略)